

【フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	北海道
-------	-----

・学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	陸別町立陸別中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1		3	12
生徒数	25	28	25		78	

・研究の概要

1. 研究主題

「確かな学力」向上のための個に応じた指導についての実践研究
-------------------------------

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年の数学・英語 子どもの理解度に差が出やすい教科であるため</li> <li>・全学年の選択教科 少人数指導による基礎・基本の定着のため</li> </ul>
---

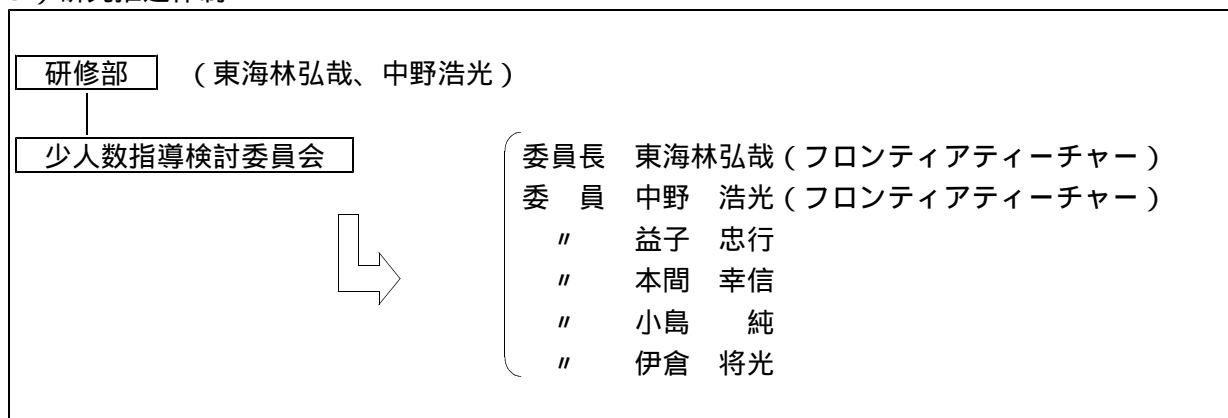
(2) 年次計画

平成14年度	<p>テーマ</p> <p>「数学科の基礎学力の向上についての取組」</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <p>数学の授業や選択教科の授業において、少人数指導やチーム・ティーチングを行うことにより、理解度、定着度に差がある数学科の基礎学力を向上させることができる。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導内容、指導方法、指導体制の研究</li> <li>・指導技術を高めるための授業研究会の開催</li> <li>・少人数指導やチーム・ティーチングについての理論研究</li> <li>・各教科で身に付けさせたい力の研究</li> <li>・各教科における「学力向上プロジェクト」の指導プランの作成</li> </ul>
--------	--

平成 15 年 度	<p>テーマ 「数学科、英語科などの基礎学力の向上についての取組」 （変更理由：数学科、英語科を中心に取り組んでいるが、他教科でも選択教科において少人数指導やチームティーチングに取り組んでいるため）</p> <p>研究の見通し（仮説） 数学・英語及び選択教科において、少人数指導やチーム・ティーチングなど指導方法・指導体制を工夫することにより、基礎学力を身に付けることができる。 （変更理由：テーマ変更理由に同じ）</p> <p>研究内容・方法 ・前年度の成果と課題を踏まえた指導内容、指導方法、指導体制の研究 ・ロール・プレイングを取り入れた授業研究会の開催 （変更理由：指導技術を高めるために具体的にロール・プレイングを取り入れて授業研究に取り組んでいるため） ・少人数指導やチーム・ティーチングについての実践研究 ・各教科で身に付けさせたい力の検証 ・各教科における「学力向上プロジェクト」の検討</p>
--------------------	---

平成 16 年 度	<p>テーマ 「数学科、英語科などの確かな学力向上のための取組」</p> <p>研究の見通し（仮説） 数学・英語及び選択教科において、指導体制を工夫し、発展的・補足的な学習など個に応じた指導の充実を図ることで、確かな学力を身に付けさせることができる。</p> <p>研究内容・方法 ・前年度の成果と課題を踏まえた、指導方法、指導体制の工夫と改善 ・指導と評価の一体化を図る授業過程における自己評価・相互評価の研究 ・少人数指導やチーム・ティーチングにかかわる改善 ・各教科の身に付けさせたい力・「学力向上プロジェクト」の見通し ・生徒指導の手法を生かした指導技術の実践的な研究 ・3カ年の研究の成果と課題についてのまとめ</p>
--------------------	--

(3) 研究推進体制



## ・平成15年度の成果及び今後の課題

### 1. 研究の成果

- (1) 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発
  - ・数学科において、操作的な活動を取り入れた授業を行ったことにより、学習意欲を高め、学習方法がわからない生徒がいなくなった。
- (2) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫・改善
  - ・数学科において、つまづいている生徒には、チーム・ティーチングなど指導方法・指導体制の工夫・改善を行ったことにより基礎学力の向上が見られた。
  - ・英語科において、つまづいている生徒には、チーム・ティーチングなど指導方法・指導体制の工夫・改善を行ったことにより、話す力など「表現の能力」を高めることができた。
  - ・教師の指導技術の向上を図るため、ロール・プレイングを取り入れた授業研究を継続的に実施し「OKの技法」、「繰り返しの技法」、「質問の技法」の3つのポイントを授業に生かすことができるようになった。
- (3) 児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善
  - ・チャレンジタイムに関するアンケートでは、96%の生徒が「基礎的な力が身に付いた」または、「今後も実施した方がよい」と回答している。また、少人数指導についても、66%の生徒が「理解しやすい」と回答している。

### 2. 今後の課題

- (1) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫・改善
  - ・数学科においては、単元及び1単位時間の指導計画に、習熟の程度に応じた学習を位置付ける必要がある。
  - ・英語科においては、理解の程度に応じた課題設定を工夫する必要がある。
- (2) 児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善
  - ・自己評価、相互評価を生かした授業づくりについての研究が必要である。

### ・学力など把握のための学校としての取組

- ・定期的な学力調査の実施 (年1回3月に実施)  
(観点別到達度学力検査)

### ・フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・上西春別中学校(フロンティアスクール)職員に対する本校の実践研究の説明
- ・十勝管内学校運営研修会における、学力向上フロンティアスクールとしての説明
- ・10年経験者研修における、本校の研究についての説明
- ・池田町立池田中学校の校内研修における、本校の研究の説明(フロンティアティーチャーを派遣)
- ・平成15年度北海道中学校校長会研究大会における本校実践の紹介
- ・北海道中学校教育課程改善協議会(保健体育部会)における本校の評価システムの紹介
- ・平成15年度北海道立教育研究所「道研ミニ講座」における本校の研究の紹介
- ・公開教育研究会の開催(学力向上フロンティアスクールとしての今年度の実践を発表)
  - 日時 平成15年11月26日
  - 場所 陸別町立陸別中学校
  - 対象 十勝管内、道東地区の小中学校
  - 目的 学力向上フロンティアスクールとして2年目の実践研究を発表するため

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校
- 【学校規模】  3学級以下  4～6学級  
 7～9学級  10～12学級  
 13～15学級  16学級以上
- 【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 その他
- 【研究教科】  国語  社会  数学  理科  
 外国語  音楽  美術  技術・家庭  
 保健体育  その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無